

園田学園女子大学

< 地域 > と < 大学 > をつなぐ経験 値教育プログラム

連携自治体 尼崎市

地(知)の拠点として

本学は、建学の精神「捨我精進（しゃがしょうじん）」にもとづき「地域と共に歩む大学」として、地域に開かれた大学づくりを推進してきました。本事業では、地域課題の解決に向けて、「知」の拠点となるべく全学的な教育改革を行います。まず、「地域連携推進機構」を中心に、学内の知的資源を総合的に把握し、研究及び教育の場を調整します。次に、本学の教育コンセプトである循環型の「経験値教育」の実質化をはかります。尼崎市をフィールドに演習科目「つながりプロジェクト」を新設し、地域と共に調査・研究し、提言を行います。さらに、「経験値」を評価するシステムを構築して、多面的に地域課題に向き合う社会に有用な人材の育成を目指します

教育 - 「つながりプロジェクト」と経験値評価システムの構築

地域社会の激しく多様な変化に対応できる人材を育成するためには、主体的に学ぶ姿勢を養い、多角的に事象を捉えることが重要です。そこで、本学が尼崎市とこれまで培ってきた関係〈つながり〉のうえに、課題探求能力を高めることに主眼をおいた課題解決型科目「つながりプロジェクト」を必

修科目として新設します。この科目は学問領域を横断した総合的な学びを提供するものです。

本学では、教室で理論を学んだうえで、地域において実践することから得られる力を「経験値」ととらえています。つまり、教室で学んだことが地域社会でどう活かされるかを実感することで理論と実践が結びつき、さらに次の学びへと発展していく、「知識」を「知恵」へと変える力のことです。これまで一人ひとりの学生を評価することが困難であった「経験値」ですが、人と人の「つながり」を可視化した数値を一つの指標ととらえ、学生自らが「経験値」を自覚することができる新しい評価システムを構築します。

研究 - 研究会「まちづくり解剖学」とプロジェクト研究

尼崎市の多様な地域課題について、これまで不定期に研究会「まちづくり解剖学」を開催してきました。今後は、「健康づくり」「学校教育」「生涯学習」「子ども・子育て支援」をテーマに、定期的に研究会を開催し、大学と地域が交流する場をもち、地域の課題を受け止め、調査・研究にあたります。

学生のプロジェクト研究の成果については、発表会やプランコンペを実施する予定です。そこでは、行政、市民団体等の講評を受け、

さらなる研究テーマを探します。

地域志向の研究は、本学の知的資源を最大限に活用し、研究体制の根幹に位置付け、研究支援体制づくりをすすめます。その地域研究の成果を公開し、データベース化することにより、地域で広く活用できることを目指します。

社会貢献 - 「まちの相談室」と「まちの支援員」

大学と地域をつなぐ窓口として、地域連携推進機構のなかに「まちの相談室」を開設します。「まちの相談室」は、教員の指導のもとに、学生地域連携委員が主体となって運営する、大学と地域のコミュニケーションの場です。地域の情報を収集、蓄積するとともに、学内に地域が必要とする情報を発信し、連携活動の活性化を図ります。

その一方、総合生涯学習センターにおける講座において地域課題に応じたカリキュラムをつくり、まちづくりに携わる地域人材「まちの支援員」の育成を目指した認定制度を確立します。たとえば、小学校区を中心に地域の絆を深め、教育力を高める取り組みのコーディネーターを養成する講座です。また、研究成果をわかりやすく地域に還元する講座も設けます。これらの講座では、本学学生も共に学び「経験値」を高めることができる機会にしていきます。

園田学園女子大学 地(知)の拠点整備事業

〈地域〉と〈大学〉をつなぐ経験値教育プログラム

建学の精神「捨我精進」にもとづき、多面的に地域課題に向き合うことができる社会に有用な人材の育成

尼崎市の地域課題



健康づくり



学校教育



生涯学習



子ども・子育て支援

研究

まちづくり解剖学

教職員・学生・自治体
集まり、地域社会の
課題を共有し、意見
交換する定期的な
研究会



教育

人間健康学部

総合健康 人間看護 食物栄養
学科 学科 学科

人間教育学部

児童教育
学科

短期大学部

生活文化 幼児教育
学科 学科

大学と連携

つながりプロジェクト

課題解決型科目

大学連携科目

官民が抱える - 大学の社会貢献 - 地域と社会

地域理解導入科目

全学を横断する経験値教育

「知識」を「知恵」に変える循環型の「経験値教育」
大学と地域による新しい評価システムを導入

社会貢献

まちの相談室

学生主体の運営
大学と地域の交流

まちの支援員

まちづくりに携わる
地域人材の育成



本学における尼崎市との連携の包括的な窓口は地域連携推進機構です。尼崎市においては、企画財政局政策部まちづくり企画・調査担当が本学との連携事業を担い、各事業のテーマに応じて市の各部署との調整を行います。両者は定期的に「統括会議」をもち、事業を計画し、方針を決定します。また、部門、プロジェクトごとに、担当教員、関係部署、諸団体が構成されるプロジェクト会議を開催し、事業を遂行していきます。



尼崎市

政策部まちづくり企画・調査担当課長

立石 孝裕

早くから都市化が進んだ本市は、他都市に先んじて、インフラの老朽化、人口減少や少子化・高齢化に伴う様々な課題に直面している「課題先進都市」といえます。本市がこれらに対し、地域の皆様とともに手を取り乗り越える「政策先進都市」を目指している中で、今回園田学園女子大学が当事業の採択を受けたことは非常に心強く、健康、学力向上など大学の得意分野を活かしていただき、ともにチャレンジしていきたいと考えております。



園田学園女子大学

人間健康学部 教授

山本起世子

本学が「地(知)の拠点整備事業」に取り組むことにより、以下の2つの効果が期待できると考えています。第1に、教員間、教員・学生間の関係が密接であるという本学の特徴を活かし、学部・学科を超えた連携を強めることによって広い視野から地域課題にアプローチすることができるようになるでしょう。そして第2に、研究成果を地域課題の解決に活かすことが大学の使命だという意識が教員間でさらに高まると考えられます。

奈良県立大学

地学連携と学習コモンズシステム による地域人材の育成と地域再生

連携自治体 奈良県・奈良市・桜井市・宇陀市・明日香村

地(知)の拠点として

奈良県立大学は、全学的な教育改革に取り組み、来年度より新たな教育システムとして、フィールドワークを重視した実践的教育、ゼミ教育を中心とする「学習コモンズ制」を導入します。

学習コモンズ制は、教員グループと学生グループによって構成される志向性を持った学習共同体で、観光創造、都市文化、コミュニティデザイン、地域経済の4つの領域を設け、課題指向型教育、解決指向型教育によって、地域再生に貢献できる地域人材を育成します。

各コモンズは、それぞれが連携する市町村において地域再生をテーマに、全学体制で地域を志向した教育・研究・社会貢献という大学が果たすべき機能の実現に取り組めます。

教育 - 持続可能な地域社会の実現と発展に貢献できる人材の育成

本学は、持続可能な地域社会を築くため、創造力・主体的行動力・状況対応力・学び継続力をもった地域づくりに貢献できる人材を育成することを目指しています。

そのため、授業科目及びカリキュラムの抜本的な改革を行い、

課題指向型教育、解決指向型教育を展開します。

授業科目では、大幅な見直しを行い、効果的に地域に関する学修を深める学習コモンズ制の4つの領域の科目群を設定します。

カリキュラムでは、対話型教育の重視、実践型教育の充実によって、創造力を持った自尊自立のたくましい人材の育成を行います。

具体的には、1年次から4年次まで毎年ゼミを配置し、特に2年次と3年次には週二コマ連続のゼミを開講し、徹底的に対話型教育を実施します。さらに、実践型教育として、ゼミで地域に出ることは当然のこととして、それに加えてフィールドワークを必修化し、学生が授業時間以外の時間に主体的に地域にかかわることを求めています。

研究 - 地域ニーズに即した研究の推進と支援体制の充実、地域への成果還元

地域との共同研究について大幅に拡充するため、全教員が共同研究に携わる体制を整備します。

また、地域ニーズを的確にとらえるため、地域づくり連携協議会を開催するとともに、連携自治体にサテライト拠点を設けより細やかにニーズを把握します。

そのため、地域交流センターを中心とした支援体制の整備・充実に努めています。

地域への成果還元については、サテライト拠点で成果発表会を開催するほか、附属図書館に地域創造データベースを構築し、研究成果のオンラインデータベース化を進めます。

また、研究成果に基づく政策提言の実施など積極的に連携自治体との協調を計り、地域への研究成果の還元に努めます。

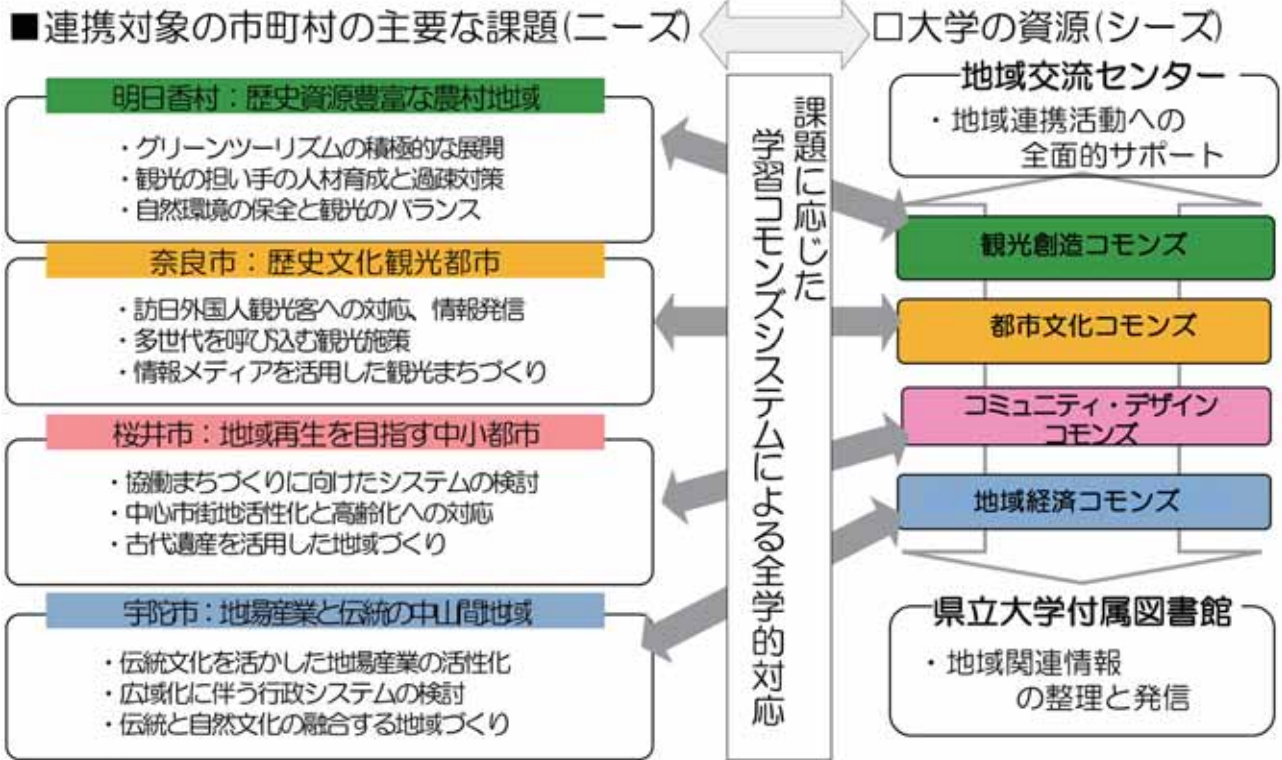
社会貢献 - 地域社会ネットワークの中心機能の充実と世代を超えた学びの提供

各連携自治体における地域課題の解決に積極的に取り組み、地域の持続的な発展を支える拠点となるため、各地域と連携しながら共同プロジェクトを展開します。

また、様々な学びのニーズに対応するため、従来の枠にとらわれない形態の学びの場として大学を整備します。具体的には、附属図書館の地域創造データベースコーナーや協働サロンなどを整備・充実して活用したうえ、地域のネットワークの中で中心的な学びの場を提供します。

さらに、平成26年度末に奈良県の援助により大学に完成予定の「(仮称)地域交流棟」を活用して、例えばシニア世代の学びのニーズに対応するための講座の開催や、公開講座の充実などに努めます。

連携自治体の課題と奈良県立大学の資源の活用



連携自治体では、奈良市は歴史文化を活用した一層の広がり、桜井市は市民協働の仕組みづくりや商店街再生、明日香村はグリーン・ツーリズムの取り組みの拡充、宇陀市は地場産業の活性化が課題として挙げられます。

本学は、これらの市町村と包括連携協定の締結、各種計画策定への支援、共同研究やプロジェクトの実施などこれまでの連携の実績をもとに、全学的な対応として各コモンズがそれぞれの市町村の課題解決に取り組んでまいります。

また、その成果を奈良県との連携により、県内他市町村の課題解決のモデルとして活用してまいります。



明日香村役場
企画政策課課長
脇田 康弘

明日香村は村内各種団体から構成される明日香ニューツーリズム協議会を通じて、平成 23 年度から奈良県立大学との連携事業を国内外からの教育旅行の体験プログラム「あすか歴史探検隊」、民泊モニターツアー、旅行エージェンツ向ファームトリップなどを実施し、また、「あすかふるさと夏まつり」への参加等継続的に地域密着型で実施しています。今後、本事業を通じて村と大学の連携がさらに深まることを期待しています。



地域創造学部観光学科 4 年生
井上 美智

明日香村をフィールドとして、地域の方々と連携して着地型観光を企画運営し、教育旅行などで村を訪れる中学生に、明日香の歴史や文化を分かりやすく学んでもらう「あすか歴史探検隊」を実施し 150 名近くの生徒を受け入れました。また、シンガポール、マレーシア、オーストラリア等の中高生との交流事業も実施しています。今後もこれらの貴重な体験を通して、後輩たちが多くのことを学んでくれることを願っています。

和歌山信愛女子短期大学

子育て支援を主軸とした地（知）の 拠点事業『きょう育の和』

連携自治体 和歌山県・和歌山市

地（知）の拠点として

この事業は、3つの「きょう育」（子育て・子育てに関わる機関・団体・学生に学び合いの場を提供する『教育』、地域が共に子育てに関わる社会を育む『共育』、教育から共育、そして郷育へ、世代間の循環による地域活性化を目指す『郷育』）を実現し、和歌山を子育てしやすい、住みよい『和（なごみ）の街 和歌山』として活性化化する試みです。和歌山市と連携し、教育・研究・社会貢献を融合した拠点を作ると共に、教育の地域志向化を促進します。さらに、和歌山県と連携して、子育て・子育てを支援できる人材育成を目指した認定資格養成講座を開設し、子育てを支援する機関・団体・子育て当事者をつなげるネットワークの構築を目指します。

教育 - 教養科目群『紀の国わかやまと世界』と『子育て・子育てサポーター』養成講座

教養科目のカリキュラムを改革し、和歌山の地域的課題に取り組む全学共通教養科目群『紀の国わかやまと世界』を含む4領域を創設します。教育内容に、和歌山地域の精神性・文化・歴史・自然等を盛り込むことで、世界におけ

る和歌山の特色を理解し、県民としての責任感と真の郷土愛に溢れた人材を育成することを目指します。

また、和歌山県と連携して、独自の認定資格『子育て・子育てサポーター』養成講座を創設し、県への登録制度を作ります。各科専攻が指定する科目8単位と指定科目『子育て・子育て支援論（仮称）』を履修し、所定の単位をおさめた者に、本学が「子育て・子育てサポーター」として認定します。さらに、県に登録することで、より公共性を兼ね備えた認定資格とします。これにより、子育て支援の基礎知識と各科独自の専門性を活かした、子育て当事者の「子育て」と「仕事」の両面を支えることが出来る人材育成を目指します。

研究 - 子育て・子育て支援ネットワーク『共育の輪』と子育て環境としての和歌山研究

地域の子育て・子育て支援に関わる個人・団体を繋げる子育て・子育て支援ネットワーク『共育の輪』形成に向けた実践的研究活動を行います。これにより、子育て・子育て支援に関わる個人・団体の縦と横の繋がりの組織化を図ります。そして、各機関が連携した研究・支援事業を促進します。

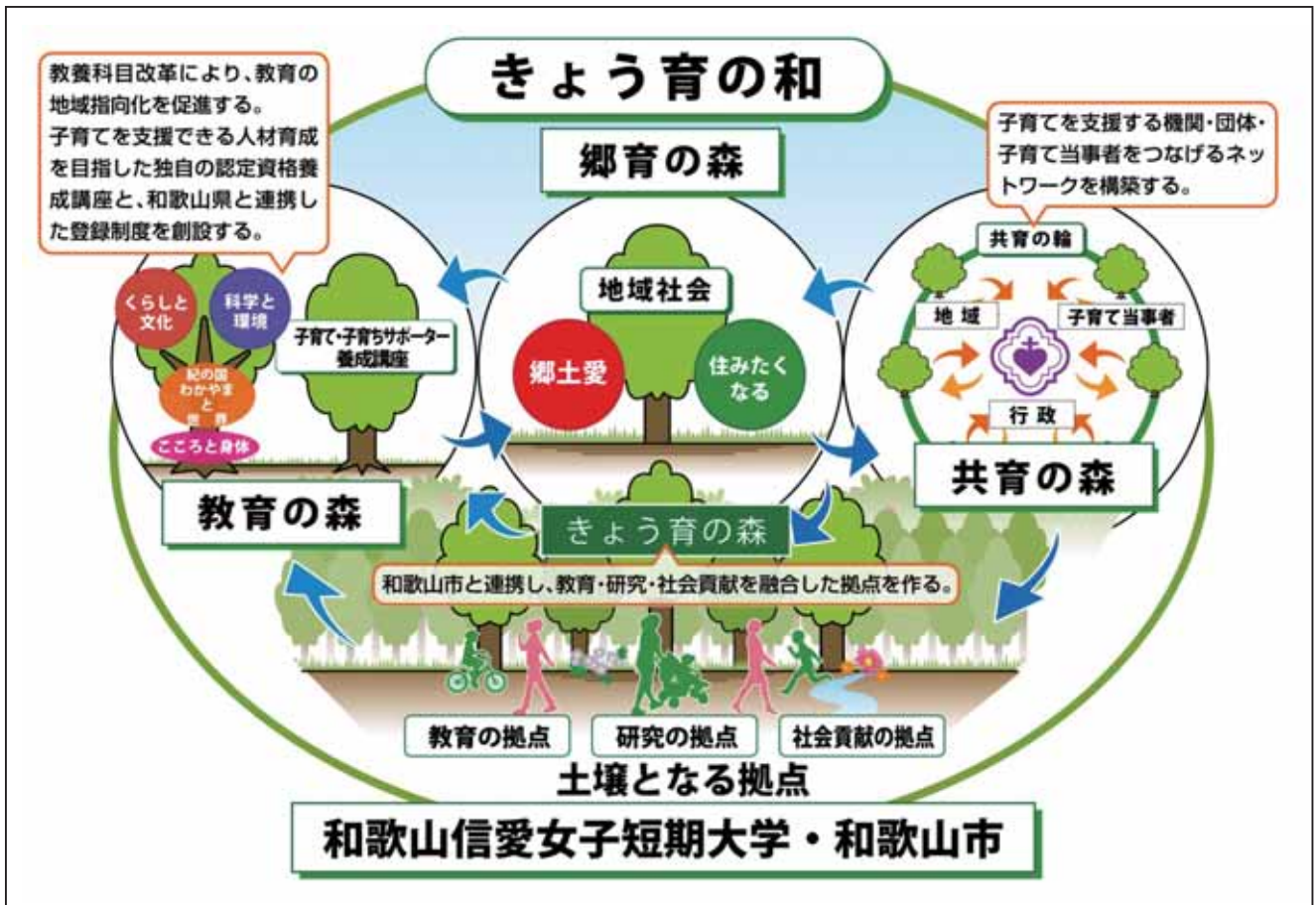
また、子育て・子育て環境とし

ての、和歌山の文化や自然を対象とした調査・研究を行います。専門分野を超えた研究者間の連携を促すことで、多様な視点から子育て環境についての研究を行います。この成果を広く公開し、地域の人々の、良質な子育て・子育て環境としての和歌山地域への理解と郷土愛を高めるとともに、地域の活性化推進を目標とします。

社会貢献 - 子育て・子育て支援拠点『きょう（教・共・郷）育の森』と母親の学び直し支援

和歌山市と連携し、学内の豊かな自然環境と一部施設を利用した子育て・子育て支援拠点『きょう（教・共・郷）育の森』を創設し、子育て支援活動を行います。和歌山の原風景を残した学内の自然環境を積極的に活用することで、親子の心身共に健やかな子育て・子育てを支援を目指します。

また、子育て中の母親の再就職を支援するため、『きょう育の森』と連携した学びの機会提供を行います。さらに、保育士資格、幼稚園教諭免許、または栄養士資格を保持し、現場への復帰を考えている方を対象に学び直しの機会を提供します。これにより、子育て当事者支援と子育て支援者充実の両面を支え、和歌山県内での子育て・子育て支援対策の充実を目指します。



和歌山県の課題は、少子高齢化と転出超過による急激な人口減です。急速な人口減は地域の人と人のつながりを断ち切り、子育てを地域で支える環境が無くなりつつあります。本学では、和歌山県と和歌山市とともに連携協議会を立ち上げました。この協議会を通じて地域の声をくみ上げ、和歌山市と連携した子育て支援拠点『きょう育の森』や和歌山県との連携による『子育て・子育て支援者』養成講座の内容充実に活かしていきます。これにより、子育て支援の中心的存在となる人材を育成するとともに、子育て環境としての和歌山を再生し、「住み良い和みの街」として活性化することを目指しています。



和歌山市
子ども未来部子育て支援課 課長
宮崎 久

「きょう（教・共・郷）育の和」事業は、官学連携による子育て支援を主軸とした地域の再生と活性化を目指した事業である。特に本市と連携して行われる事業、子育て・子育て支援拠点「きょう育の森」の運営においては、子育て・子育てに係わる当事者・学生・機関・団体等の学び合いの場となり、関係者によるネットワーク「共育の輪」が構築されることで和歌山市の子育て支援環境が充実するものと考えている。



生活文化学科生活文化専攻
教授
大山 輝光

本事業では、和歌山の地（知）の拠点である本学を中心に、企業・行政・NPOなどと積極的に関わりながら地域の子育てネットワークを構築することを主眼としております。また、新たに「子育て・子育て支援者」を認定するなど、共に学び合いながら未来を広げる活動が展開されます。子育て支援拠点「きょう（教・共・郷）育の森」で行われる実践的教育プログラムは、学生の全人的な成長を促す絶好の機会となります。